

さ庭いま若みどりなり生きよ生きよとわが背なを押すその若みどり

佐佐木由幾

梅の林過ぎてあふげば新生児微笑のごとき春の空あり

伊藤一彦

曇り日の身の深みにて絵となりぬかの冬の町この春の川

久家基美

あの人は留守をしていたたつぷりと桶の若布に日がさしていた

小紋潤

亡きわが子空よりのぞく気配して誘われてこし草の丘まで

住 正代

空より見る一万年の多摩川の金剛力よ、一万の春

佐佐木幸綱